

京 都 大 学

教 育 学 部 紀 要

XXIV

潜在的ラテラルリティ及び認知様式の型の発達（その2）

公立図書館と国家

アメリカ大学教授連合（AAUP）の結成とその後の展開 —大学の自由との関係で—
教育学の軽視（その1）

discipline-centered curriculum について

対人恐怖症の心理と倫理

マートン「社会構造とアノミー」論の再考察

教育行政研究における「国家」把握の問題について

幼児期における視知覚の発達過程について

精神薄弱児における注意の特性

ロールジャッハ・テストの体験型と人間像による自我機能の分析

子どもの記憶に及ぼす記銘方略とテスト様式の効果

多義語連想検査の解釈の試み —事例研究を中心に—

依存性についての—研究—依存的行動と質問紙並びに TAT で測定した

依存性との関連—

視覚誘発反応と知能との関係

上部構造における教育とそのイデオロギー諸形態

日本新興宗教論序説—天理教の成立をめぐって—

近代公教育の起源・試論—近代教育史方法論によせる—

比較教育史方法論の視角—デュルケム社会学の場合—

デュローイにおける倫理学と道徳教育理論

Matthew Arnold における「教養」の理念 —その社会批判と教育論の基底として—

京都大学教育学部紀要 XXIV

目 次

潜在的ラテラルティ及び認知様式の型の発達 (その2) ……	坂 野 登	1
公立図書館と国家 ……	森 耕 一	8
アメリカ大学教授連合 (AAUP) の結成とその後の展開		
—「大学の自由」との関係で— ……	高 木 英 明	21
教育学の軽視 (その1) ……	和 田 修 二	35
discipline-centered curriculum について ……	稲 葉 宏 雄	47
対人恐怖症の心理と倫理 ……	鈴 木 睦 夫	62
マートン「社会構造とアノミー」論の再考察 ……	村 上 直 之	70
教育行政研究における「国家」把握の問題について ……	岩 橋 法 雄	86
幼児期における視知覚の発達過程について ……	荒 木 穂 積	101
精神薄弱児における注意の特性 ……	近 藤 文 里	113
ロールシャッハ・テストの		
体験型と人間像による自我機能の分析 ……	林 悦 子	125
子どもの記憶に及ぼす記銘方略とテスト様式の効果 ……	小 林 進	139
多義語連想検査の解釈の試み—事例研究を中心に— ……	森 谷 寛 之	146
依存性についての—研究—依存性行動と質問紙		
並びに TAT で測定した依存性との関連— ……	石 井 伸 子	159
視覚誘発反応と知能との関係 ……	山 本 満 里 子	172
上部構造における教育とそのイデオロギー諸形態 ……	石 戸 教 嗣	183
日本新興宗教論序説—天理教の成立をめぐる— ……	福 井 直 秀	193
近代公教育の起源・試論—近代教育史方法論によせる— ……	三 原 芳 一	204
比較教育史方法論の一視角—デュルケム社会学の場合— ……	前 平 泰 志	213
デューイにおける倫理学と道徳教育理論 ……	鈴 木 政 勝	223
Matthew Arnold における「教養」の理念		
—その社会批判と教育論の基底として— ……	竹 熊 耕 一	234

昭和 52 年度 修士論文

氏 名	論 文 題 目
井 上 康	福本イズムと20年代の共産主義運動
宇佐美 悟	経験について
柏 木 正	「授業における陶冶と訓育の統一」に関する研究 —ドイツ民主共和国におけるトマシェフスキー・ノイナー論争の検討—
渡 辺 保 博	小学校における学力概念の形成過程の検討——「彝倫」の学との関連において——
神 谷 栄 司	現代ソビエトにおけるピオネール集団の訓育的意義
二反田 美智子	「話しことば」獲得期の点頭てんかん児の発達と指導
中 矢 哲 司	現代アメリカにおける社会科教育論
平 井 豊 和	遊びとしての読書
有 元 尚 子	記銘項目の諸要因によって決定される処理水準の検討——特に STM を中心に——
入 谷 好 樹	感情移入についての考察——その概念規定を中心として——
菅 野 信 夫	心身症における症状の身体化について
實 川 幹 朗	心的現実の意味とその役割について—心理学基礎論（メタ理論）の一考察—
中須賀 淑 子	知的活動時の調音筋の活動の筋電図学的研究
藤 本 浩 一	運動姿勢描画の発達的研究
松 田 道 子	周辺視における刺激布置と判断の関係について
河 田 祐 子	女性の成熟に関する一研究
辻 頭 延	現代社会における成員主体の問題について——媒介変数としての個人（人間）——
仲 谷 兼 人	視覚刺激の方向性と知覚判断
山 本 左恵子	フランスにおける社会教育の展開—人民戦線内閣時代を中心として—
奥 田 実	明治後期の家族主義イデオロギー
池 上 貴美子	乳時期における模倣の研究—顔の模倣を中心として—

昭和 52 年度 卒業論文

氏 名	論 文 題 目
新 井 秀 明	現行教育補助制度の意義と問題点—義務教育無償の実現のために—
猪 飼 容 子	明治期師範学校生と「学校騒動」
石 井 文 子	保育者の「専門性」の確立について
伊 藤 隆 司	戦前生活綴方運動に於ける生活教育の思想と方法
稲 垣 恭 子	クラスルーム・リサーチの視点と方法—A・Aベラックの研究を中心として—
井 上 智 義	Dichotic Listening における選択的注意と Shadowing の影響
植 田 啓 子	社会と家族における性別役割
植 田 健 男	教育政策概念の検討—コミュニティ・センター政策の分析から—
卯 野 純 子	70年代教育改革の諸問題
江 藤 育 美	大正前期の経済雑誌にみる教育意見について—「東洋経済新報」「東洋経済雑誌」「東洋時論」による—
岡 田 俊 樹	公教育の任務の限界
金 井 寿 宏	意思決定論に基づく行動科学的組織論パラダイムの基礎づけ—教育行政研究の行動科学的アプローチの妥当性と限界—
京 極 和 子	教員組合による教育研究集会の法的位置づけ—その“参加”“承認”を中心として—
小 林 哲 郎	Ambiguity Tolerance 概念と R-S 次元—反応の抑制を手掛りとして—
近 藤 い づ み	戦後職業訓練行政の性格の検討—職業訓練法における職業訓練組織化の理念の性格—
斎 藤 美 和 子	「優しさ」考
高 島 信 子	対人魅力における類似性要因の研究—向性の類似性と魅力の関係について—
高 田 茂	農本社会論序説
瀧 口 直 子	どんな人が ASC を体験し易いか—性格特性及び親子関係との関係から—
藤 堂 玲 子	乳児の reaching における手の機能的非対称性の発達
鳶 野 克 己	人間存在にとっての「絶望」の意味について—S. キルケゴール「死に至る病」を中心—
長谷川 保 宏	青年の「理想の異性像」および「現実の自己像」に関する一考察—
林 寛 子	母イメージの研究—SD 法と因子分析による—
福 島 寿 男	Williamson Report について
星 野 郁 雄	Robert M. Hutchins の教育思想を論ず
松 崎 順 子	後催眠健忘による抑圧の実験的研究
松 原 巨 子	1 歳児における指示行動と命名の発達について
馬 淵 毅 彦	現代人における自尊心の諸相
森 繁 男	日本における「性」の状況と展望—W. ライヒの復権をめぐる—

森山浩一	現代における自己表現の可能性について
吉岡真佐樹	プロイセン国民学校 (Volksschule) 教員養成制度における試補制度の発展
米山義盛	「地域における公民館創造の視点」—松川町の公民館にみる—
渡辺松男	少年・少女マンガの世界とその比較
西村良平	社会教育実践へのイメージ
山本剛	二宮尊徳の報徳の道
有田裁彦	余暇の教育的機能について
伊藤一也	O. F. Bollnow における「認識」と「自己生成」
佐藤俊一	高校生の欲求不満場面における攻撃反応について
塚本秀男	戦後反動教育批判の盲点—「+2次全入運動」を巡って—
中鹿彰	アルコール中毒者における IMQ の検討
中野郁夫	ハイデッガーの「不安」について
山本雅章	「国民の自己教育（運動）」の批判的検討
吉田文茂	友愛会—総同盟における教育活動について—1912年～1921年—
米田良博	鈴木メソッドにおける動機づけメカニズムの解明
中村和代	人間存在の共同性と個別性
村井俊之	教育の中立性について

編集委員 森口兼二 本山幸彦 田中昌人
編集員 梅本堯夫 高木英明
村上直之 窪島務 梅田修
竹田真理子 岩橋法雄
欧文題目校正 RICHARD RUBINGER

昭和53年3月25日 印刷
昭和53年3月31日 発行

著者並
発行人 京都大学教育学部
代表者 笠原茂樹

印刷所 山代印刷株式会社
代表者 山代多三郎
京都市上京区寺ノ内小川西入

発行所 京都大学教育学部
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

XXIV

Contents

Development of Latent Laterality and Cognitive Mode (2)	<i>N. Sakano</i>
Federal Support for Public Libraries	<i>K. Mori</i>
The Formation of the American Association of University Professors and Its Development—With the relation to “academic freedom”	<i>H. Takagi</i>
<i>educatio despecta</i>	<i>S. Wada</i>
On the Discipline-Centered Curriculum	<i>H. Inaba</i>
Psychological and Ethical Study of Anthropophobia	<i>M. Suzuki</i>
Rethinking of Merton’s Anomie Theory	<i>N. Murakami</i>
On the Grasp of “State” in the Study of Educational Administration	<i>N. Iwahashi</i>
The Developmental Process of Visual Perception in Pre-school Children	<i>H. Araki</i>
Properties of Attention in Mentally Retarded Children	<i>F. Kondo</i>
An Analysis of Ego Function by Experience Types and Human Figures of the Rorschach Test.....	<i>E. Hayashi</i>
Effects of Strategies for Remembering and Mode of Tests on Children’s Memory.....	<i>S. Kobayashi</i>
An Attempt of Interpretation of Word Associations to Words of Multiple Meaning—through Case Studies—	<i>H. Moritani</i>
A Study on Dependency—Relation between Dependent Behaviors and Dependent Traits Measured by Questionnaire and TAT.	<i>N. Ishii</i>
The Relationship between Visual Evoked Response and Intelligence	<i>M. Yamamoto</i>
Education as the Superstructure and its Ideological Forms	<i>N. Ishido</i>
An Introduction to the Theory of New Religions in Japan—on the Formation of TENRIKYO—	<i>N. Fukui</i>
An Essay on the Origin of Modern Public Education—for the Methodology of the History of Modern Education—	<i>Y. Mihara</i>
Approche de la methode comparative en histoire d’éducation—dan la Sociologie de Durkheim—	<i>Y. Maehira</i>
A Study on Dewey’s Ethics and His Theory of Moral Education	<i>M. Suzuki</i>
Matthew Arnold’s Idea of “Culture”—as the Base of his Social Criticism and Educational Thought—	<i>K. Takekuma</i>

The Faculty of Education, Kyoto University

March, 1978